

第4年2組 社会科学学習指導案

令和4年9月8日(木) 5校時
附属義務教育学校 前期課程
指導者 伊 東 孝 之

1 単元名 地域の人々の思いや願いを大切にして受け継がれる松江祭藝行列

2 授業構想と探究への手立て

本単元では、松江祭藝行列(以下、藝行列)を教材として取り上げる。藝行列は、江戸時代初期の「とんど行事」を起源とし、歳徳神を祀るために行われてきた松江市を代表する年中行事である。およそ100年前の大正天皇即位の際に、各地区が藝と呼ばれる太鼓を引いて、笛やチャンガラの囃子に合わせて練り歩くという現在の形になった。人々にとって藝行列は地域の宝であり、人々のつながりの象徴的存在でもある。藝や藝行列に関わる様々な慣習は、100年以上もの間、それぞれの地区の人々によって大切に受け継がれてきた。人々の地域に対する誇り、地域の発展や人々のまとまりへの思いや願いがあるからこそ、藝行列は、これだけ長らくの間、保存・継承されてきたのである。このように、藝行列は、保存・継承に携わる人々の強い思いに触れることで、地域で工夫や努力を重ねながら大切に受け継がれてきた年中行事であることを捉えることができる教材であると言える。子どもたちが、今後の保存・継承に向けてできることを「我がこと」として捉え、地域にくらす一人として、探究意欲をもちながら学びを進め、自分にできることを主体的に考えていく姿を目指したい。

本単元は「つかむ」「調べる・考える」「まとめる」「いかす・ふりかえる」の4つの探究の過程で構成する。「つかむ」過程においては、藝行列についてのイメージを共有した後に、昔と現在の藝行列の様子がわかる写真を比較しながら、変わっていないところに着目し、これまで同じように続いている理由を考える。そして、子どもたちから出た意見をもとに、「藝行列はだれが、どんな思いで、どのように伝えて、続いてきたのだろう。」という単元を貫く学習問題をつくる。子どもの考えをもとにして学習問題をつくることで、学習問題は子ども自身の問いになり、単元全体を通して子どもが自ら探究の過程のサイクルを回し、学びを進めていくことにつながると考える。「調べる・考える」過程では、学習問題の解決に向け、資料の読み取り、藝伝承館の見学や藝打ち体験、藝行列に携わる人々の話を聞くことを通して、藝行列の歴史や内容、伝統を受け継いでいる人々の思いや願い、これから保存・継承していくための取組について探究していく。探究を進める中で、藝行列は、単に「続いてきた」のではなく、携わる人々の強い思いや願いによって「続けられてきた」ということを捉えることができるようにしていきたい。「まとめる」過程では、探究してきたことを年表にまとめる。事実だけでなく、携わる人々の思いや願いについてもまとめ、次時からの自分にできることを考える際に生かしていきたい。そして「いかす・ふりかえる」の過程では、藝行列で考えた視点を生かしながら県内にある文化財や年中行事を調べ、その後、人々の思いや願いをふまえ、今後の保存や継承に向け、地域にくらす一人として何ができるのかということをも具体的に考えていく。

「つかむ」過程の2時間目である本時は、子どもが前時で気付いた「これまで藝行列が同じように続いてきている」ということの意味を改めて考え、学習問題をつくる場面である。理由を考える際には、保存・伝承されてきたということに意識が向くように、「誰が」「何を」「どのようにしてきたのか」ということが明確になるように問い返していく。子どもから出た意見を板書上で整理しながら「保存・伝承についての取組」「人々の思いや願い」「藝行列の歴史」の3つの視点に分類し、視点ごとに問いをつくり、その後、単元を貫く学習問題づくりを行う。段階的に学習問題を練り上げていくことで、子どもにとって問いが明確になるだけでなく、問いの解決への見通しももつことができると考える。子どもの考えや言葉を大切にしながら学習問題をつくり、次時以降の子どもの探究的な学びにつなげていきたい。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景や現在に至る過程、保存や継承のための取組などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、県内の年中行事の様子について理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、県内の年中行事には地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。	①歴史的背景や現在に至る過程、保存や継承のための取組などに着目して、問いを見出し、県内の年中行事の様子について表現している。 ②年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、人々の願いや努力について考えたり、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分にできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	①県内の年中行事について、予想したり、学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を探究し、解決しようとしている。 ②地域の伝統や文化の保存・継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。

4 単元全体の流れ（全12時間）

- ・ 鑿行列について知り、過去と現在の鑿行列の様子を比較し、学習問題をつくる。（1・②本時）
- ・ 鑿行列の歴史や内容について調べる。（3）
- ・ 鑿伝承館の見学や鑿打ち体験をして、鑿行列保存会会長さんの話を聞き、鑿行列で大切にされていることや携わる人々の思い、今後の課題などについてわかったことを話し合う。（4・5・6）
- ・ 鑿行列の担い手を確保するための工夫や努力について調べる。（7）
- ・ 鑿行列の保存・継承のための工夫や努力について調べる。（8）
- ・ 鑿行列の保存や継承について話し合い、学習問題についてまとめる。（9）
- ・ 県内の他の地域で行われている年中行事について調べる。（10・11）
- ・ 地域の伝統や文化の保存や継承に向けて、自分にできることを考える。（12）

5 本時の学習（第2時／全12時間）

(1) ねらい

鑿行列がこれまでと同じように続いている理由を考えることで、鑿行列の伝統や保存・継承について問いを見出すことができる。

(2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	目指す姿と取組を支える手立て
<p>1. 前時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔と今で変わらないところがたくさんあったから、ずっと同じやり方で続いてきたんだっただね。 ・ 鑿やばち、はっぴは、昔も今も同じだったね。 ・ どちらも鑿を打つ人の動きがそろっていたよ。 <p>2. これまで鑿行列が同じように続いている理由について話し合い、学習問題をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に扱った昔と今の写真を提示し、比較しながらふり返ることができるようにする。 ・ 「もの」や「人」という視点でふり返り、これまで鑿行列が続いてきたということを確認し、本時の学習内容への意識を高められるようにする。
<p>鑿行列がこれまでと同じように続いているのは、なぜだろう。</p>	
<p><保存・伝承についての取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加していた子どもたちが大人になって、また参加しているのかな。 ・ 地域の大人が鑿の打ち方を子どもたちに伝えているのかな。 ・ 鑿やはっぴも、昔から地域の人に伝えられているんじゃないかな。 <p>⇒「だれが、どのように伝えてきたのだろう。」</p> <p><人々の思いや願い></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの地域でも大切に守られてきたのかな。 ・ 地域の人や松江の人みんなが、鑿行列が好きだからずっと続いているんじゃないかな。 <p>⇒「人々はどんな思いをもっていたのだろう。」</p> <p><鑿行列の歴史></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔の人がやり方を決めて、そのやり方を守っているのかな。 ・ 100年以上前の大昔から続いているのかな。 <p>⇒「どのようにして続いてきたのだろう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を考える際には、保存・伝承に意識を向け、取組や人々の思い、歴史に着目して具体的に考えられるように、「何を伝えているのだろう。」「なぜ伝えているのだろう。」「ずっと昔はどうだったのだろう。」等と問い返し、子どもの考えを掘り下げていく。 ・ 子どもたちの意見を整理し、「保存・伝承についての取組」「人々の思いや願い」「鑿行列の歴史」の3つの視点に分類して板書する。 ・ 子どもたちの意見からまとめた3つの視点ごとに問いをつくり、学習問題につなげることができるようにする。
<p><学習問題></p> <p>鑿行列はだれが、どんな思いで、どのように伝えて、続けてきたのだろう。</p>	
<p>3. 本時の学習をふり返る。</p> <p>鑿行列がこれまでと同じように続いているのは、地域の大人が子どもたちに伝えて、昔からのやり方を大切に受け継いできたからだと思います。これから、昔の鑿行列や、鑿の打ち方がどうやって伝えられてきたのかをもっと調べたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習で考えたことや学習問題についての予想、これから調べていきたいことについて書けるようにする。 <p>【評価の観点（思考・判断・表現）】</p> <p>鑿行列がこれまでと同じように続いている理由に着目し、鑿行列の伝統や保存・継承について問いを見出している。（発言・ワークシート）</p>

